The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

| | |
|---|---|
| Title | Reliability and Validity of the Japanese Version of the Barriers to Access to Care Evaluation Scale Version 3 for People With Mental Disorders: an Online Survey Study |
| Author(s) | 本郷, 美奈子 |
| Citation | 大阪大学, 2022, 博士論文 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://doi.org/10.18910/88185 |
| rights | |
| Note | |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

様式３

# 論　文　内　容　の　要　旨

| 氏　名　（　本郷　美奈子　） | |
|---|---|
| 論文題名 | **Reliability and Validity of the Japanese Version of the Barriers to Access to Care Evaluation Scale Version 3 for People With Mental Disorders: an Online Survey Study**<br>(精神障害者が治療機関を利用することに対する障壁の尺度第3版日本語版の信頼性と妥当性の検討：オンライン調査を用いて) |

論文内容の要旨

【背景・目的】スティグマとは，特定の集団に向けられるステレオタイプ・偏見・差別を指す。スティグマが自分自身に向けられるとき，セルフスティグマと呼ばれる（Corriganら，2002）。精神障害者がセルフスティグマを抱くと，自分自身の価値を低いものとみなし，治療をタブー視して治療スティグマを形成して，治療をうけることの回避につながる。したがって，治療スティグマは，精神障害の治療の重要な阻害要因である（Gulliverら，2010）。Clementら（2012）は，治療スティグマを定量化する尺度Barriers to Access to Care Evaluation scale v3（BACE第3版）を開発した。しかし，日本には治療スティグマを測定する尺度はない。本研究は，BACE第3版日本語版を作成し，その因子構造の検討，信頼性と妥当性の検証を行うことを目指した。

【方法】過去1年間に専門機関を利用した成人男女268名（男性130名，女性138名）を対象にオンライン調査を実施した．調査内容は書面で提示し，アンケートの記入・提出を同意とした．220名（男性114名，女性106名）は，最初のアンケートを提出してから2週間後に2回目のアンケ―を記入し，再度調査内容を確認して正式な同意を得た．治療スティグマ下位尺度の収束的妥当性を検証するために，the Stigma Scale for Receiving Psychological Help（Komiya, Good, & Sherrrod, 2000：SSRPH）およびThe Internalized Stigma of Mental Illness Scale（Tanabe, Hayashi, & Ideno, 2016：ISMI）を用いた．

【結果・考察】BACE第3版は，「子どもあり」の条件項目が３，「仕事あり」の条件項目が３あるが，参加者のうち子どもがいる有職者は29名であった．各条件項目と他の項目間の関係を検証するには，データ数が少ないため，今回は，これら６項目を除外して探索的因子分析を行った．探索的因子分析では，最尤法，プロマックス回転を採用し，２因子抽出された．２因子いずれに対しても負荷が.350の基準を満たしていない５項目は削除した．結果，第１因子である治療スティグマ下位尺度，第2因子である非スティグマ下位尺度を構成する項目は全てオリジナル版と一致した．次に，確認的因子分析を施行したところ，モデルの適合度指数は，$\chi^2(151)= 303.14(p<.01)$，RMSEA=.087，TLI=.842，SRMR=.078，そして CFI=.86であった．治療スティグマ下位尺度，非スティグマ尺度のクロンバックα係数は，.90，.83となり高い内的整合性を示した．また，2週間後の再調査では，$r$=.76，$r$=.64となり，信頼性が確認された．治療スティグマ下位尺度と，SSRPHおよびISMIの相関は，$r$=.66（ $p$<.01 ），$r$=.58（ $p$<.01 ）となり，収束的妥当性が確認された．以上，結果から，BACE第3版日本語版は，日本において使用可能である，今後の課題として，分析対象から除外した項目を含めた尺度の検証を行うために，子どもと就労，両者の項目について回答が可能な人，および専門的な精神医療を必要としながらもまだ受けていない人を対象に調査を行う必要がある．

【結論】日本において，BACE第3版日本語版は，メンタルヘルスケアのための専門的な治療機関を利用することに対する障壁を包括的に測定することが可能である．さらに，治療スティグマ下位尺度は，日本の精神疾患全般の患者の治療に関わるスティグマの測定が可能である．

様式 7

# 論文審査の結果の要旨及び担当者

| 氏　名　（本郷美奈子） | | | |
|---|---|---|---|
| 論文審査担当者 | | （職） | 氏　名 |
| | 主 査 | 教授 | 土屋　賢治 |
| | 副 査 | 教授 | 谷池　雅子 |
| | 副 査 | 准教授 | 荒木友希子 |

## 論文審査の結果の要旨

申請者は，精神障害の治療の阻害要因としての「治療スティグマ」を計測する評価尺度を開発し，その特性を解析・検討するとともに，評価尺度の臨床的意義について考察し，報告した。

スティグマとは，特定の集団に向けられるステレオタイプ・偏見・差別を指す。スティグマが自分自身に向けられるとき，セルフスティグマと呼ばれる（Corriganら，2002）。精神障害者がセルフスティグマを抱くと，自分自身の価値を低いものとみなし，治療をタブー視して治療スティグマを形成して，治療をうけることの回避につながる。したがって，治療スティグマは，精神障害の治療の重要な阻害要因である（Gulliverら，2010）。Clementら（2012）は，治療スティグマを定量化する尺度Barriers to Access to Care Evaluation scale v3（BACE第3版）を開発した。しかし，日本には治療スティグマを測定する尺度はない。本研究は，BACE第3版日本語版を作成し，その因子構造の検討，信頼性と妥当性の検証を行うことを目指した。

直近12カ月以内に精神科治療を受けたことのある成人男女268名（女：男＝138：130）を対象とするオンライン調査を実施し，うち220名には2週間後の再調査を行った。解析1：半数を解析対象として最尤法，プロマックス回転を用いた探索的因子分析を，残る半数を解析対象として確認的因子分析を行い，カイ2乗，RMSEA，TLI，SRMRを適合度指標とした。解析2：クロンバックのα，および再調査を含む2回分のデータの相関係数を求め，内的整合性，および再試験信頼性を検証した。解析3：他の2つの評価尺度の計測との相関係数を求め，収束的妥当性を検証した。

BACE第3版日本語版は30項目から構成される。対象者に適合しない6項目を除外し，24項目を用いて解析した。解析1：原版と一致する２因子（治療スティグマ下位尺度，非スティグマ下位尺度）が抽出され，モデルの適合が確認された。解析2：高い内的整合性，高い試験・再試験信頼性が確認された。解析3：収束的妥当性が確認された。

結果は，BACE第3版日本語版が日本の精神障害者に対して臨床使用が可能であることを示唆した。除外した項目に関する検証，精神医療をまだ受けていない人における妥当性の検証を行う必要が残された。

質疑応答の内容（抜粋）は以下の通りであった。

・「治療スティグマの決定因について」～自身が罹患する精神障害の知識がある人は治療スティグマの水準が低いことが知られている。成人において，女性よりも男性が，高年齢より低年齢層が，治療スティグマの水準が高いことが示唆されている。

・「未治療者を対象に治療スティグマを計測すると，どのような結果が想定されるか」～解析から削除した項目（治療懸念・利便性・症状自覚に関する項目）の負荷量が高くなる可能性がある。

・「日本語訳について」～原著者のマニュアルに準じて実施したため，日本語版独自の変更はない。

・「今後の研究の展開について」対象者の属性にもとづく検討が必要である。オンラインによるデータ回収の特性を生かした検討ができる。

申請者は治療スティグマの位置づけ，計測法の開発，計測法の信頼性・妥当性の確認を適切な方法により行い，報告した。治療スティグマの計測を通じて治療開始前からの臨床的介入の可能性の道を開くという臨床的意義は大きく，研究としての発展性も高い。論文審査担当者からの質疑に対する応答はすべて適切であった。

以上より，本研究の成果は博士（小児発達学）の学位授与に値すると判断した。